

プレスリリース

2023年10月13日
国境なき医師団 (MSF)

パレスチナ・ガザ地区：市民に対する無差別暴力と「集団的懲罰」の即時中止を

国境なき医師団 (MSF) は、ハマスによる市民の残虐な大量殺戮と、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への大規模攻撃に慄然し、これを非難する。MSF は、紛争当事者による無差別攻撃の即時停止、および民間人に安全な空間と移動通路を確保するよう緊急に求める。また、民間人の食料、水など、必要不可欠な物資や医療施設への安全なアクセス、および医薬品、医療機器、食料、燃料、水などの人道物資のガザ地区への搬入を許可するよう求める。そのためには、エジプトとのラファ国境を開放し、同地点への爆撃を中止する必要があると訴える。

市民 220 万人に対する「集団的懲罰」

ガザ地区ではこれまで続いていた慢性的な人道的危機が今回の無差別爆撃によって大惨事と化している。地区内には、現在 220 万人もの人びとが閉じ込められ、MSF もスタッフ 300 人以上を地区内に擁し、中には家や家族を失った者もいる。移動も著しく困難になっている。

「戦闘機は通りを一区画ずつ破壊しています。隠れる場所も気を休める暇もありません。毎晩爆撃されている場所もあります。ガザでは 2014 年と 2021 年にも何千人もの死者が出ました。MSF の医療スタッフは毎日、家に戻ってくることができるか、家族に再会できるか、不安を抱きながら仕事に行きます。しかし、今回はまるで違うと言います。今回の紛争が始まり 5 日後にはすでに 1200 人が命を落としました。人びとが生き抜くためにできることや、安全な場所はありません」と、ガザで MSF 現地活動責任者を務めるマティアス・ケネスは憤る。

ガザでは何百万人もの市民が、イスラエル軍による「完全封鎖」、無差別爆撃、そして地上戦の脅威という形で、「集団的懲罰」に直面している。封鎖は、食料、水、燃料、電力の供給停止を含む容赦のないもので、命を救うための物資を意図的に断ち切り、戦闘に巻き込まれた患者や医療スタッフにも救命の選択肢を与えないものだ。

いま早急に必要とされているのは、市民の安全な場所の確保と、人道物資と医療スタッフのガザ入りを可能にすることだ。負傷者や病人の医療へのアクセスは確保されなければならないし、病院や救急車は標的にしてはならない。

過去最悪レベルの破壊にひっ迫する医療

「ガザ保健省の病院では、麻酔薬や鎮痛剤が不足しているとスタッフから報告を受けています。MSF 側で

は、2 カ月分の緊急備蓄品からガザ北部のアル・アウダ病院に医薬品を移しましたが、3 週間分の在庫を 3 日で使い果たしました」と、MSF ガザ医療コーディネーターのダーウィン・ディアスは報告する。

MSF のスタッフは、10 月 7 日以来、移動が極度に制限されている。安全な移動経路の特定は難しく、負傷者の治療に奔走するパレスチナの医療関係者の支援も困難となっている。MSF のチームは、すでに過去最悪レベルの破壊を目の当たりにしている。MSF が支援する 2 つの病院、アル・アウダとインドネシア病院はいずれも空爆で被害を受け、MSF の診療所も 9 日の爆発で被害を受けた。

現在、MSF は独自の診療所を運営し、ガザ北部のアル・アウダ病院、インドネシア病院、南部のナセル病院を支援している。10 月 10 日には、火傷と外傷の患者を受け入れるため、ガザ最大のアル・シファ病院の手術室を再開した。MSF はまた、同病院に医薬品を寄付し、今後も現地医療機関への支援を継続する。ヨルダン川西岸地区については、ジェニン、ヘブロン、ナブルスにいるチームが、激化する暴力に伴う医療ニーズを調査している。同地区では入植者による攻撃やイスラエル軍との衝突で、少なくとも 27 人のパレスチナ人が死亡している。

民間人、民間インフラ、医療施設は常に保護されなければならない。MSF はイスラエル政府に対し、ガザ全域に対する攻撃、市民に対する「集団的懲罰」を中止するよう求める。また、イスラエルとパレスチナの当局および諸勢力に対し、市民の安全な空間の確立、ガザ地区への人道支援、食料、水、燃料、医薬品、医療機器の搬入を緊急に実現するよう求める。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

メディア向け X(旧ツイッター)アカウント：@MSFJ_Press